

第2次 東温市地域公共交通計画 《概要版》

R8 (2026) 年3月
東温市

地域と人を紡ぎ、
未来に向かってシンカする公共交通

進化・深化・新化・伸化



計画策定の趣旨

東温市の公共交通環境は、幹線を担う鉄道横河原線、路線バス川内線を始めとし、高いサービス水準が維持されている。また、支線であるバス路線についても、市全体の公共交通網の維持・活性化に向け、市民、交通事業者及び行政により様々な取組が行われてきた。

しかしながら、地域の移動ニーズを十分に満たしているとは言えないほか、人口減少に伴う利用者の減少、交通事業者の運転士不足などにより、公共交通を取り巻く環境は、年々厳しさを増している。

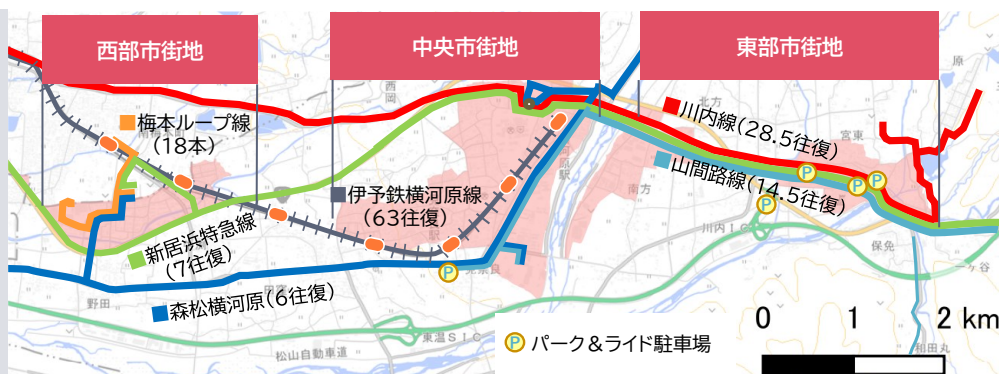
そうした中、東温市では、交流人口の拡大及び雇用の創出を地域経済の活性化に繋げていく取組を進めており、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方を踏まえ、まちづくりと連携した効率的かつ需給バランスのとれた公共交通網の再構築が求められている。

これらを踏まえ、市民の暮らしや内外の交流を支える社会基盤として、持続可能性の高い公共交通の構築を目的に、地域全体の公共交通のあり方、市民・交通事業者・行政の役割を定めるものとして本計画を策定する。

計画の区域 東温市全域

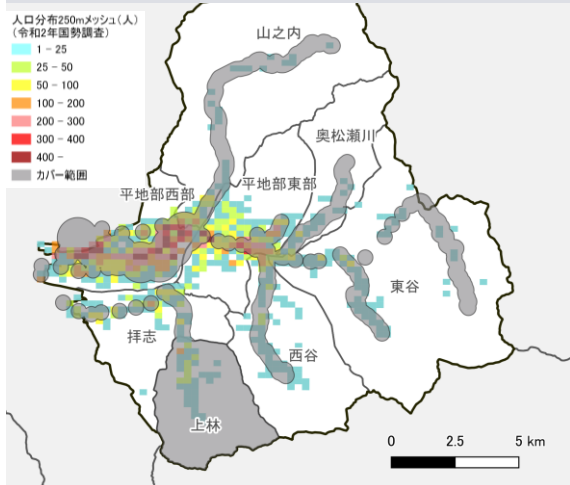
計画の期間 R8(2026)年度～R12(2030)年度までの5年間

主要路線の徒歩圏内に移動目的となる主要な施設が集積しているが、市街地間を結ぶ路線の運行頻度が不十分であったり、乗継を要したりする。



▲市街化区域と公共交通網(出典:国土地理院(背景)、各運行便数は R7(2025)年 10 月時点)

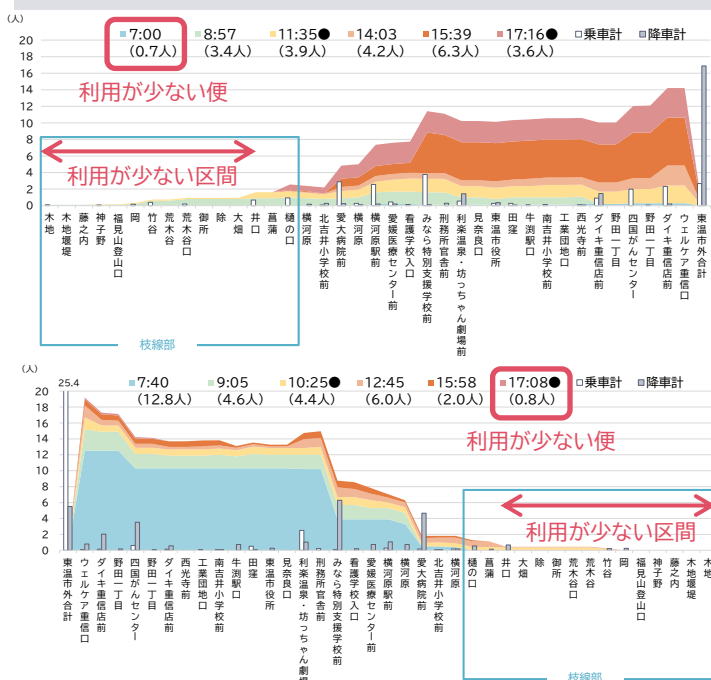
駅、バス停(フリー乗降区間含む)から離れている地域が存在する。バスの便が少なく、移動手段のない時間帯がある路線がある。



▲交通空白地域

※本市において交通空白地域は以下のいずれにも当たらないエリアと定義する。・鉄道駅の 800m 圏内・バス停及びフリー乗降区間の 300m 圏内・予約制乗合タクシーの運行エリア

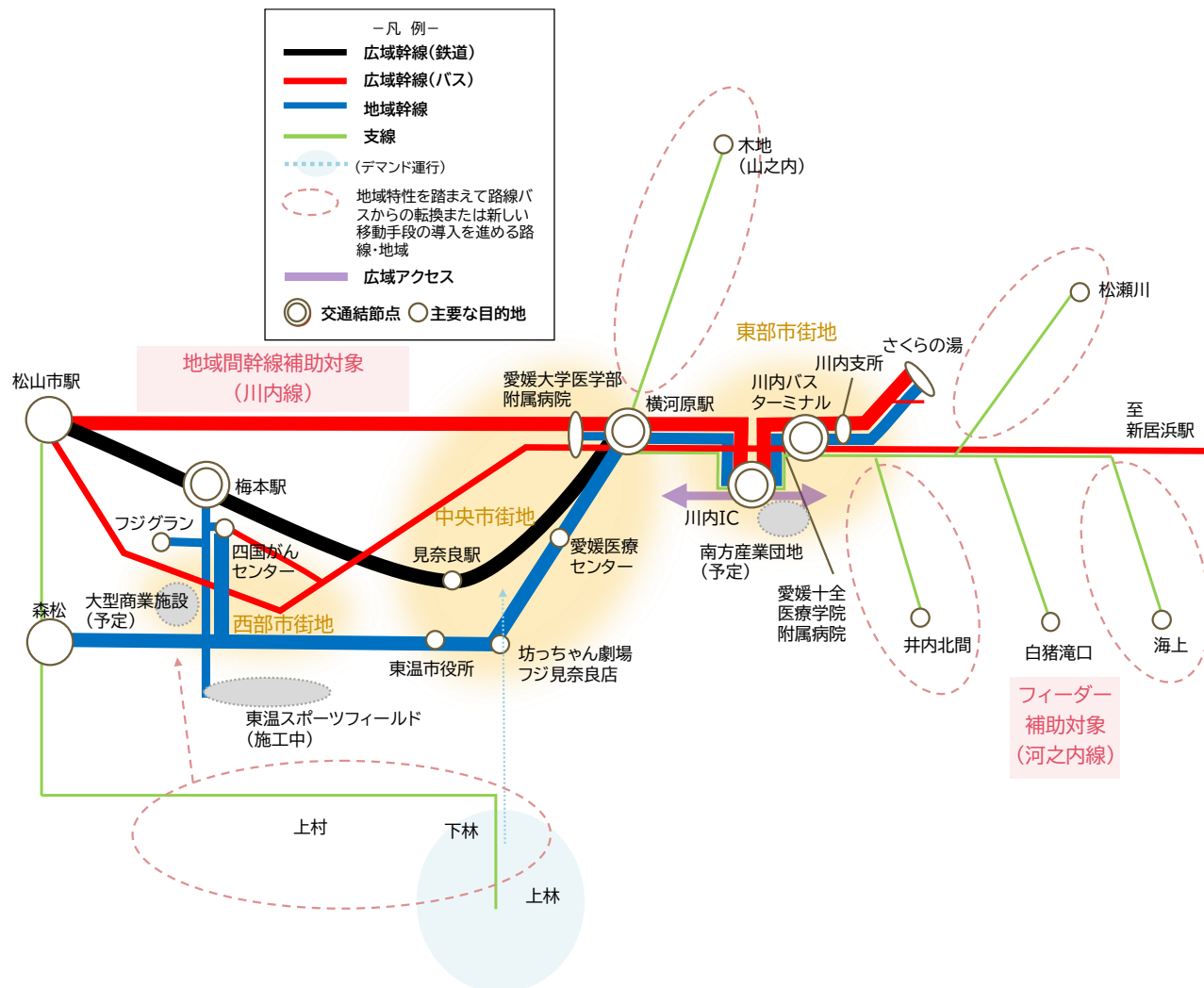
ほとんど利用されていない区間や便が存在する。



▲森松・横河原線の便別利用状況 ※●は土日祝も運行 (出典:伊予鉄バス乗降調査結果(R7年5月))

地域公共交通の将来イメージ

各路線・サービス及び交通結節点の位置付けに基づき、まちづくりと連携した公共交通網の将来イメージを次のとおり設定する。



伊予鉄道横河原線



新居浜特急線



高速バス



伊予鉄バス(幹線)



伊予鉄バス(支線)



予約制乗合タクシー



タクシー

第2次東温市地域公共交通計画の全体像

上位計画における東温市が目指す姿

第3次東温市総合計画(案)



将来都市像 “地の利”と“知の力”で 未来を築くまち 東温

東温市都市計画マスタープラン

将来都市像 『とうおん』らしさが人や地域を紡ぎ、幸せな未来へとつなぐまち

～小さくても生活水準の向上と経済の活性化による快適な生活環境が整うまちづくりを目指して～

東温市立地適正化計画

都市づくりの基本方針 幸せな未来をともに、人と地域が紡ぐ拠点  持続可能なコンパクト City Toon 

東温市の地域公共交通が目指す姿

- ・市民の基本的な日常生活を支え、安心・安全な暮らしの基盤となっている。
- ・趣味やレジャー、学びなどへのアクセスを容易にし、楽しみや喜びを供与している。
- ・松山都市圏の交流を促進し、まちに賑わいと活力を与えている。
- ・コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造を効率的に支えている。
- ・住むまち・働くまちとしての魅力向上や環境問題の解決に寄与している。
- ・地域公共交通の情報が容易に入手でき、市民が守り育てる意識を持っている。
- ・まちづくりと連携し、市民・民間企業・行政が協力して持続可能な状態にある。

現状・問題点

- 1.市内3つの市街地(中央・西部・東部)を結ぶ幹線のサービス不足
- 2.需要と運行サービスのミスマッチ
- 3.空間的・時間的な空白の存在
- 4.車への過度の依存と公共交通の利用の低さ
- 5.供給側の限界
- 6.まちづくり・他分野との連携不足

課題

- 課題1
市内の拠点間移動の強化と、新たな集客施設への移手段の確保
- 課題2
地域の需要に適した支線交通の見直し
- 課題3
空間的・時間的空白の解消
- 課題4
公共交通を利用するハードルの解消
- 課題5
担い手確保と新技術の導入
- 課題6
公共交通に関わる他分野・官民の関係者間の連携強化

上位計画

愛媛県地域公共交通計画

関連計画

東温市人口ビジョン

第2期東温市まち・ひと・しごと創生総合戦略

第2次東温市環境基本計画

第2期まつやま圏域未来共創ビジョン



東温市イメージキャラクター いのどん

基本理念

地域と人を紡ぎ、未来に向かってシンカする公共交通

【深化・進化・新化・伸化】

進化…状況に適応し新しい形に変化すること

深化…現状より優れた状態に変えること

新化…新たな自分や状況を創造すること

伸化…新しい可能性を求めて成長すること

目標

目標1

市外と中央・西部・東部市街地を結ぶ
高品質な幹線ネットワークの実現【**深化**】

目標2

需要に合った移動手段の再構築と
交通空白地の解消【**進化**】

目標3

利用機会を広げる、分かりやすい情報と
便利な仕組み【**新化**】

目標4

分野や官民の垣根を超えた連携・共創
【**伸化**】

事業

- 1 広域幹線の便数維持
- 2 川内線(路線バス)の再編
- 3 梅本ループ線(路線バス)の延伸
- 4 森松・横河原線(路線バス)の再編
- 5 松瀬川線(路線バス)の再構築
- 6 滑川線(路線バス)の再構築
- 7 河之内線(路線バス)の改善
- 8 井内線(路線バス)の再構築
- 9 予約制乗合タクシー上林線の改善
- 10 下林・上村地区への新たな移動手段の導入
- 11 交通空白地に向けた相乗りを推進する
タクシー助成制度の検討
- 12 パーク&ライド駐車場の整備・拡大
- 13 公共交通を使いたくなる環境整備
- 14 公共交通を活用したイベントの推進
- 15 公共交通に関する情報発信等
- 16 モビリティ・マネジメントの実施
- 17 地域住民の公共交通を利用する意識の醸成
- 18 目的地となる施設やイベントと連携した
利用促進
- 19 運転士不足に対応する自動運転バスの
導入検討
- 20 移住定住施策と連携した運転士の
人材確保

目標達成のために行う事業

1. 広域幹線の便数維持

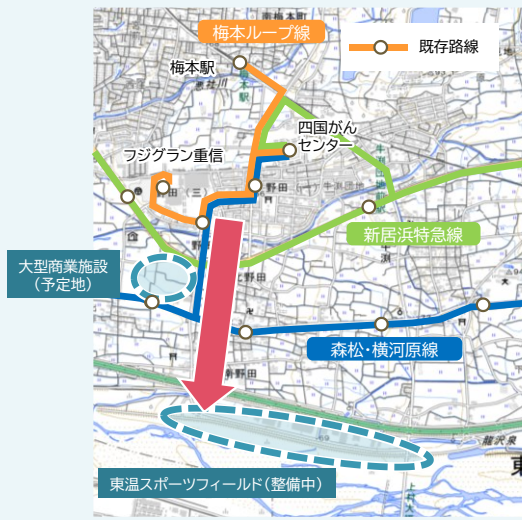
- 《鉄道》伊予鉄横河原線の便数維持
- 《路線バス》川内線の便数維持
- 《路線バス》新居浜特急線の便数維持

2. 川内線(路線バス)の再編

- 南方産業団地への接続と高速バスとの乗継を考慮したバス停の新設

3. 梅本ループ線(路線バス)の延伸

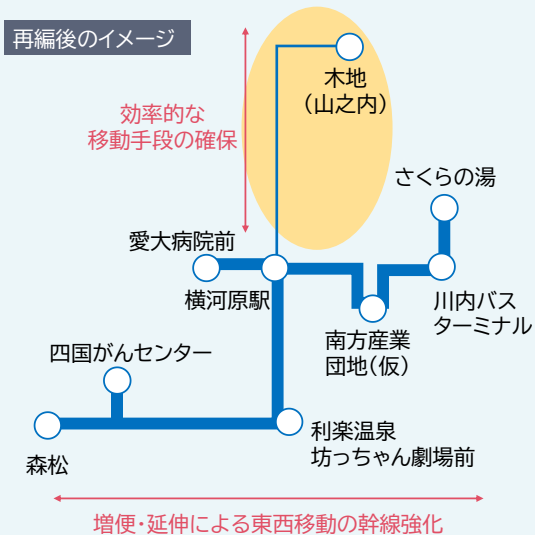
- 新しい集客施設への延伸



出典:国土地理院(背景図)

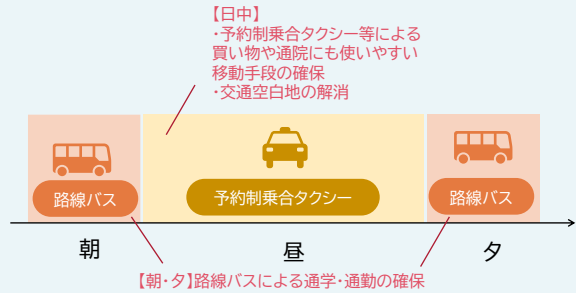
4. 森松・横河原線(路線バス)の再編

- 一部便のさくらの湯までの延伸と高頻度化
- 支線部分(樋の口~木地)の再構築
- 南方産業団地への接続と高速バスとの乗継を考慮したバス停の新設



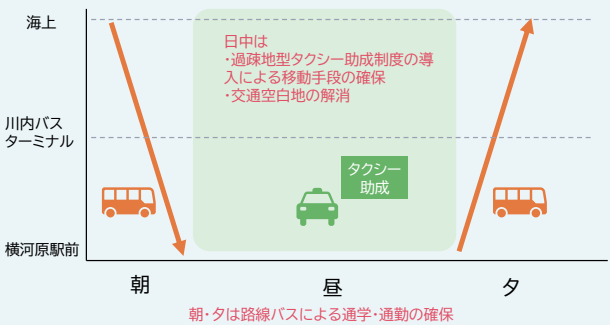
5. 松瀬川線(路線バス)の再構築

- 生活に合った移動手段の確保



6. 滑川線(路線バス)の再構築

- 生活と地域の実情に合った移動手段の確保



7. 河之内線(路線バス)の改善

- 路線バスの増便とダイヤ改正による改善

8. 井内線(路線バス)の再構築

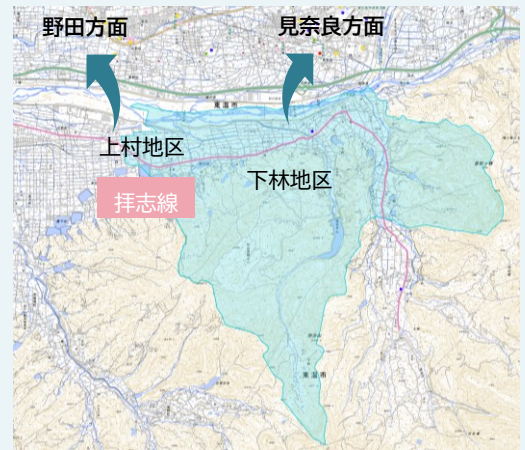
- 予約制乗合タクシー等への転換による移動手段の確保

9. 予約制乗合タクシー上林線の改善

- 便数の見直し
- 利用登録のデジタル化
- キャッシュレス決済の導入

10. 下林・上村地区への新たな移動手段の導入

- 生活ニーズに合った新たな移動手段の検討・導入



出典:国土地理院(背景図)

11. 交通空白地に向けた相乗りを推進する タクシー助成制度の検討

■効率性を考慮したタクシー助成制度の検討

○2人以上（ご家族でも可）でタクシーを利用する。

↓

○タクシーを降りる時の運賃の支払いの際に、助成券を渡す。
※1回に利用できるのは1人2枚（300円×2枚）まで

↓

○不足分は現金で支払う。

（例えば）助成券を持つ2人が同乗して、運賃が1,800円の場合

- ・助成券が使える枚数は1回あたり1人2枚（600円分）なので、2人が同乗した場合は4枚（1,200円分）使えます。
- ・そのため現金での支払いは、足りない600円（1人300円）です。

※2人あわせて1,800円の支払い

三次市相乗りタクシー利用助成券の例(出典：広島県三次市)

12. パーク&ライド駐車場の整備・拡大

■民間施設等と連携した拡充

13. 公共交通を使いたくなる環境整備

■バリアフリーバス車両の導入

■EVバスの拡大

■伊予鉄道の環境配慮型車両への更新



14. 公共交通を活用したイベントの推進

■のりものスタンプラリーの実施

15. 公共交通に関する情報発信等

■公共交通マップの継続発行

■市のSNSの活用



16. モビリティ・マネジメントの実施

■事業所モビリティ・マネジメントの実施

■乗り方教室の実施



17. 地域住民の公共交通を利用する意識の醸成

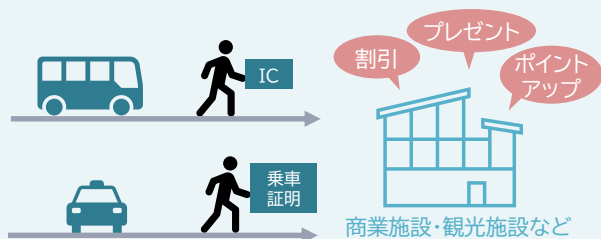
■地域意見交換や説明会の開催

■稼働率や乗合率向上の体制づくり



18. 目的地となる施設やイベントと連携した利用促進

■公共交通利用者へのインセンティブ付与



19. 運転士不足に対応する自動運転バスの導入検討

■実装に向けた具体的な検討

■社会受容性向上のための情報提供

20. 移住定住施策と連携した運転士の人材確保

■移住定住パンフレットへの掲載

スケジュール

	R8 (2026)年度		R9 (2027)年度		R10 (2028)年度		R11 (2029)年度		R12 (2030)年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
主な事業進捗の 予定	P 公共交通利便増進実施計画策定		D		再構築による運行		C		継続的なモニタリング	
			C		A 公共交通利便増進実施計画改定 (川内線の経路変更) ※時期は流動的					
地域公共交通計画 の評価	D		各事業実施(公共交通利便増進実施計画との連携)						C 最終評価	
					※必要に応じて公共交通計画の改定				A 次期計画策定	

本計画の目標の達成状況を評価するための指標

評価指標		現状値	目標値	
1	公共交通の年間利用者数	鉄道	2,334千人	2,400千人
		路線バス等	391千人	392千人
2	住民の公共交通に対する満足度	平地部	25.9%	現状以上
		山間部	16.9%	現状以上
3	伊予鉄横河原線と幹線バス (横河原～川内バスターミナル間)の 日運行便数	伊予鉄横河原線	平日63.0往復 土日祝60.0往復	現状維持
		幹線バス	平日49.5往復 土34.5往復 日祝34.0往復	現状以上
4	横河原～川内バスターミナル間の日乗降者数	333.0人/日	現状以上	
5	新設した区間(バス停)の日乗降者数	—	今後設定	
6	公共交通サービスによる人口カバー率	85.5%	90.0%	
7	市広報誌等での情報発信の回数	6回/年度	12回/年度	
8	公共交通の収支差	▲51,254千円	現状より改善	
9	公共交通に対する市の財政支出額	26,597千円	現状以下	
10	公共交通に従事する運転士の 充足状況	路線バスの充足率	88.5%	100%

第2次東温市地域公共交通計画【概要版】

発行 東温市地域公共交通活性化協議会

編集 東温市産業建設部都市整備課

〒791-0292 愛媛県東温市見奈良 530-1 TEL:089-964-4412 FAX:089-964-4447